

小松市重点目標

未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する学校

授業の質的改革 → 資質・能力を確実に身に付ける児童生徒の育成

- ①児童生徒が 主体的・対話的に学習したくなる授業
- ②児童生徒が 自己の思考を深め、自己表現したくなる授業（思考力・記述力・発表力）
- ③児童生徒が 自己の学習をふりかえり、学びを実感できる授業

組織的な体制・環境づくり → 児童生徒に資質・能力を身に付けさせる教員の育成

- ④教職員が 目標や課題を共有し自己の役割に責任を持ち、課題の解決に取り組む
- ⑤教職員が 授業力を高める。切磋琢磨し学校研究に取り組む
- ⑥教職員が 児童生徒が主体的に活動できるように環境を整える

令和6年度 学校評価重点計画

小松市立 那谷小学校
学校長 中 裕美

目指す児童生徒像

未来の創り手となる子「自ら学ぶ子、共に生きる子、たくましい子」
～自らの課題に対し、主体的に粘り強く取り組む子。共に高め合う子～

重点取組

ユニバーサルデザインラーニング（UDL）に基づく組織的取組
少人数、小集団における豊かな学びの実現に向けた改善

（１）学校の課題

- ①当たり前の尊重。粘り強く高め合う子・集団。
- ②複式学級、少人数集団における資質能力の育成。豊かな学びの実現。
- ③学校力を支える人づくり、組織づくり。

（２）具体的な方策と検証

- ①UDLに基づく組織的対応・指導の定着。生徒指導の三機能の重視。やりきる指導。
→学習・生活の当たり前の調査。児童・教師・保護者アンケート。
- ②那谷の授業デザイン・カリマネの研究と推進。自由なICT活用。
→学力テスト・読書量・アンケート等、客観的な分析、検証。
- ③担当の明確化とOJTの推進。研修の工夫。→教師アンケート、分掌による検証。